2018年度上期 決算説明会

2018年11月28日

あすか製薬株式会社

2018年度上期
連結決算概要

あすか製薬株式会社
専務取締役　丸尾　篤嗣

損益計算書（連結）

単位：百万円

	2017年度 上期	2018年度 上期	増減額	増減率
売上高	25,054	23,477	△1,576	△ 6.3%
売上原価	15,231	14,030	△1,200	△ 7.9%
売上総利益	9,822	9,446	△ 376	△ 3.8%
販売費及び一般管理費	7,949	8,486	536	6.7%
営業利益	1,872	960	△ 912	△48.7%
経常利益	1,993	1,078	△ 915	△45.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,643	743	△ 899	△54.7%

事業別売上高（連結）

単位：百万円	2017年度 上期	2018年度 上期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品	22,705	20,906	89.0%	△1,799	△ 7.9%
動物用医薬品	2,232	2,462	10.5%	230	10.3%
その他	116	108	0.5%	△ 8	△ 6.9%
合計	25,054	23,477	100.0%	△1,576	△ 6.3%

主要製品売上高

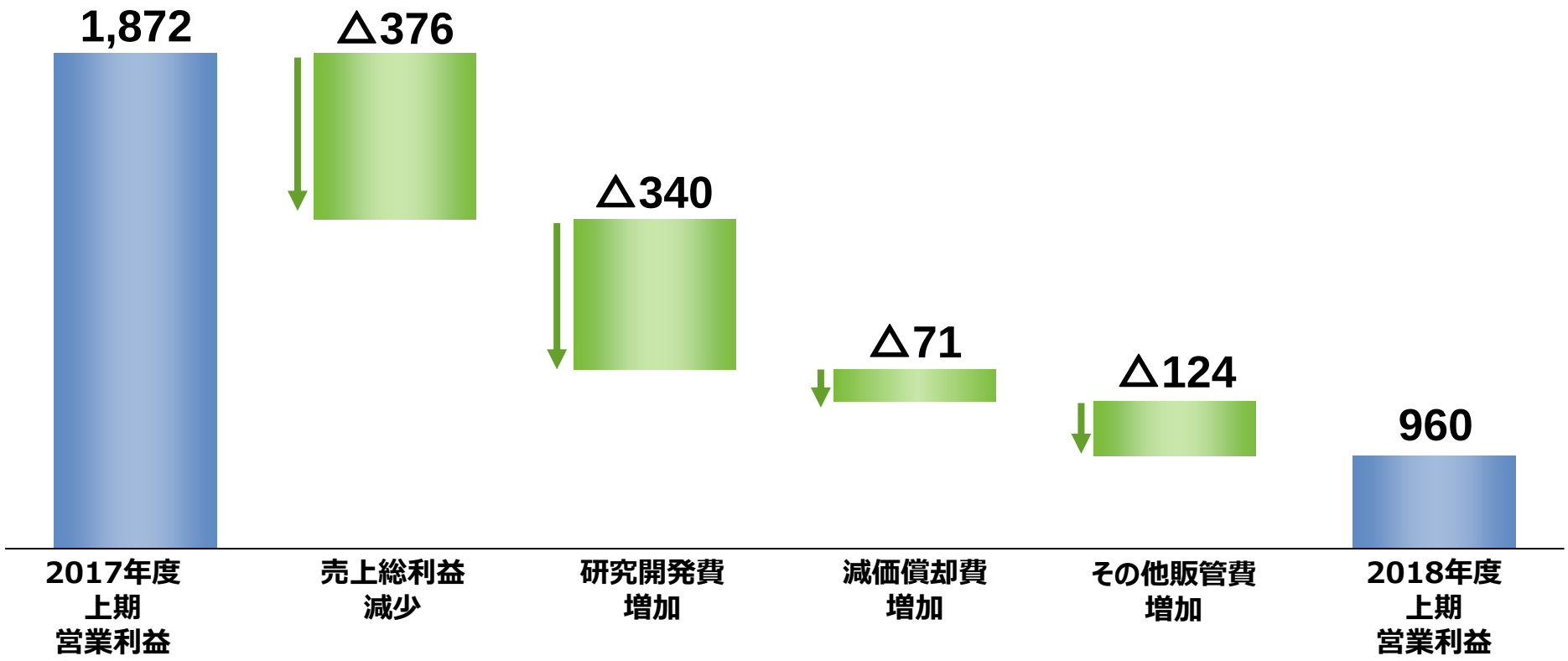
単位：百万円

領域	製品		2017年度 上期	2018年度 上期		2018年度	
			実績	実績	前同比（%）	計画	前同比（%）
内科	※1、※2	カンデサルタン類	6,843	6,077	88.8%	11,729	88.7%
		チラーヂン	2,632	3,010	114.4%	5,521	112.4%
		リフキシマ	333	1,178	353.6%	2,936	276.5%
		リピディル	2,266	1,117	49.3%	3,379	78.7%
	※1	アムロジピン	837	703	84.0%	1,373	85.0%
		メルカゾール	566	599	105.9%	1,152	105.0%
産婦人科		ノルレボ	622	658	105.9%	1,257	104.0%
		メノエイド	355	440	123.7%	670	91.1%
		アンジュ	456	419	91.9%	896	100.1%
		ルテウム	214	196	91.5%	414	99.5%
泌尿器科	※1、※3	リュープロレリン	2,070	2,076	100.3%	4,536	108.9%
	※1	ビカルタミド	854	622	72.8%	1,171	74.3%
		プロスタール	406	222	54.7%	449	63.2%

※1 ジェネリック医薬品
※2 配合剤を含む
※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mgと合算

営業利益増減分析（対前同）

単位：百万円



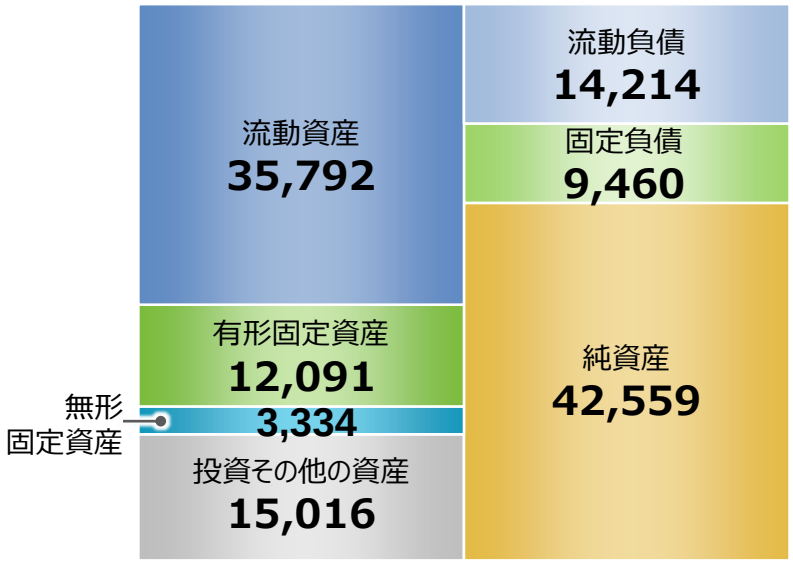
要因分析

- 薬価改定の影響等による減収に伴い、売上総利益が減少
- 開発テーマの進展に伴う研究開発費の増加等もあり、営業利益は減益

貸借対照表（連結）

2017年度末

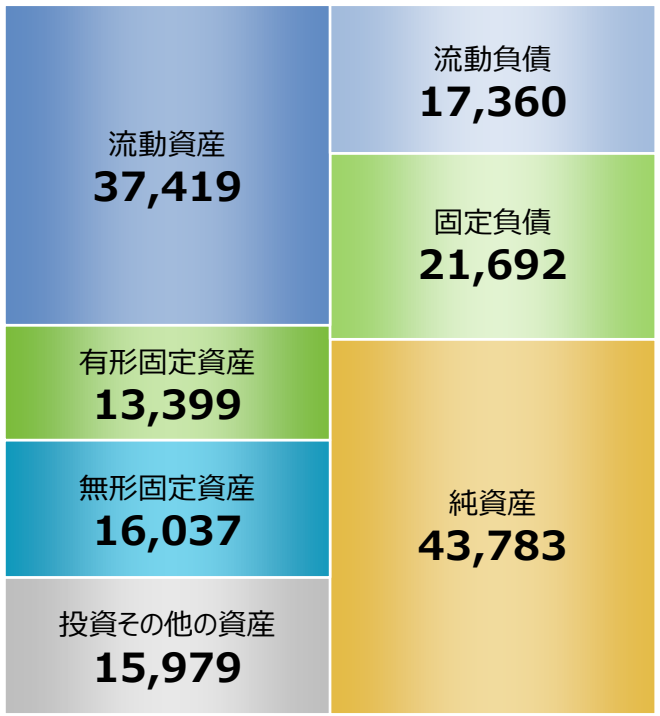
単位：百万円



総資産　66,235百万円

2018年度 上期末

単位：百万円



総資産　82,836百万円

	総資産	流動資産	有形固定資産	無形固定資産	投資その他の資産	流動負債	固定負債	純資産
増減額	16,601	1,627	1,307	12,703	963	3,145	12,231	1,223

2018年度業績予想（連結）

単位：百万円

	2017年度 実績	2018年度 業績予想 （2018.5.11公表値）	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	48,944	49,000	56	0.1%
営業利益	2,824	1,000	△1,824	△64.6%
経常利益	3,073	1,200	△1,873	△61.0%
当期純利益	2,388	1,000	△1,388	△58.1%

2018年度上期総括
年度中間報告

あすか製薬株式会社
代表取締役社長　山口 隆

本日の内容

- 2018年度上期総括
- 2018年下期のトピックス
  - リフキシマの更なる浸透
  - 産婦人科領域新製品
  - 甲状腺領域の取り組み
- 新規事業（国際事業部の新設）
- 開発パイプライン

2018年度上期総括

2018年上期の主な成果

- カンデサルタン類のシェア維持・数量ベースUP
- リュープロレリンの伸長

■リフキシマの症例拡大

■産婦人科領域新製品の獲得

- 武田薬品とのrelugolix（TAK-385） ライセンス契約締結
- HRA社（フランス）とのウリプリスタル知的財産権に関する売買契約締結
- ジェミーナ配合錠　製造販売承認取得（ノーベルファーマ）
- フリウェル配合錠LD・同ULD「あすか」 ※AG　製造販売承認取得

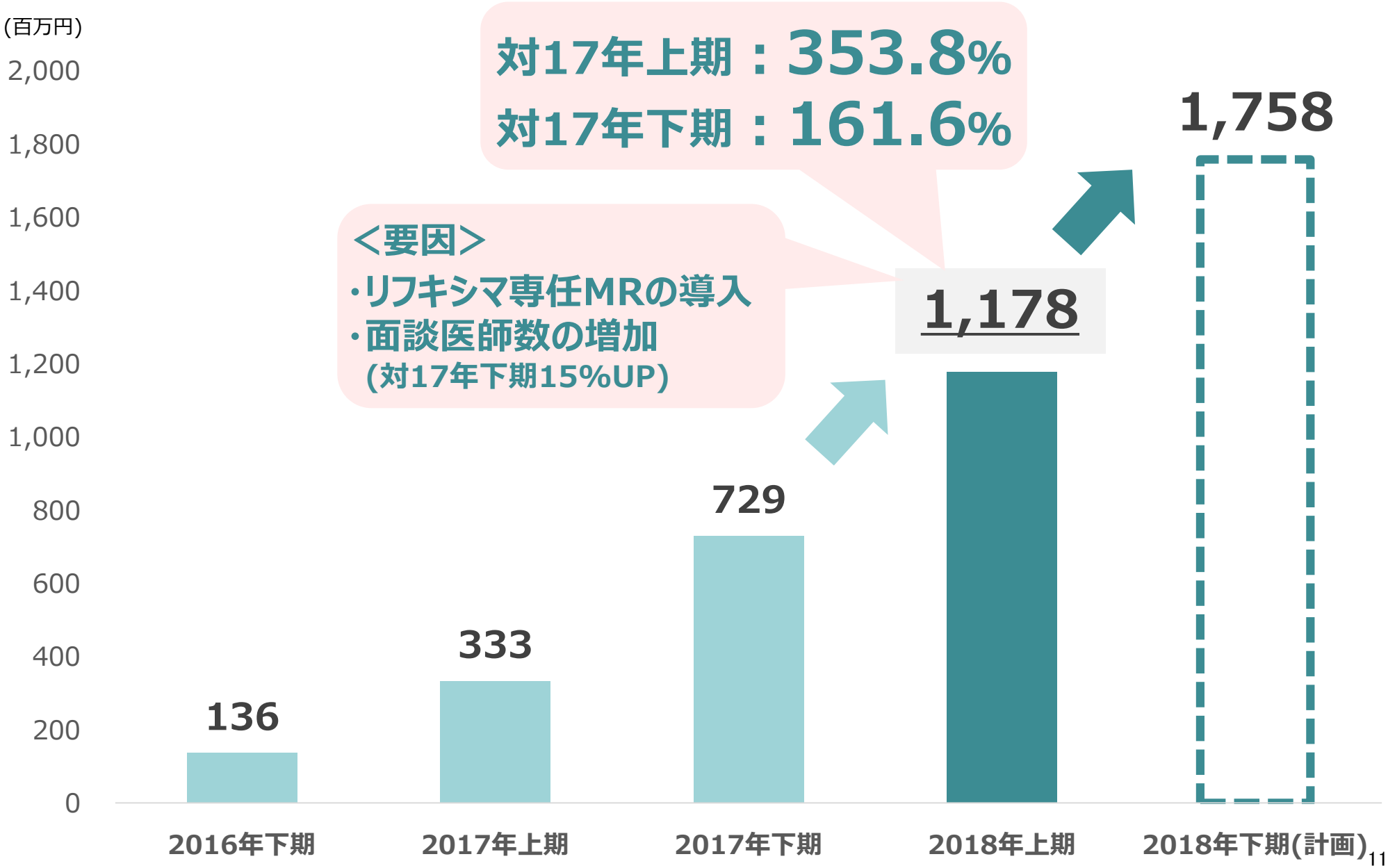
■開発パイプライン進展

- AKP-009 Phase Ⅰ 開始 (前立腺肥大症)
- AKP-015 Phase Ⅰ 終了 (粘液水腫昏睡/重症甲状腺機能低下症)
- TAK-385 子宮筋腫：製造販売承認申請済（武田薬品）
  子宮内膜症：PhaseⅢ準備中

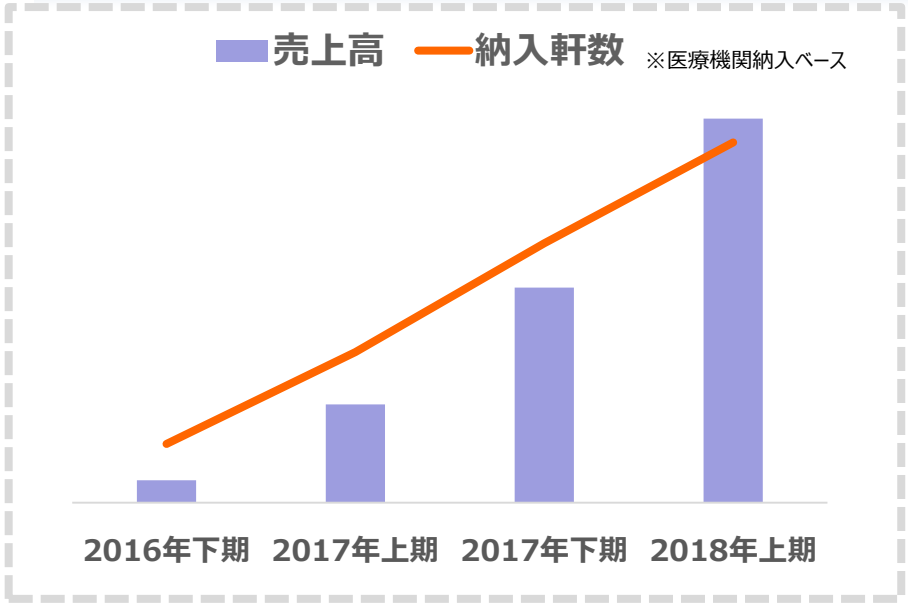
■Omnicare 社（UAE）との合弁会社をインドに設立

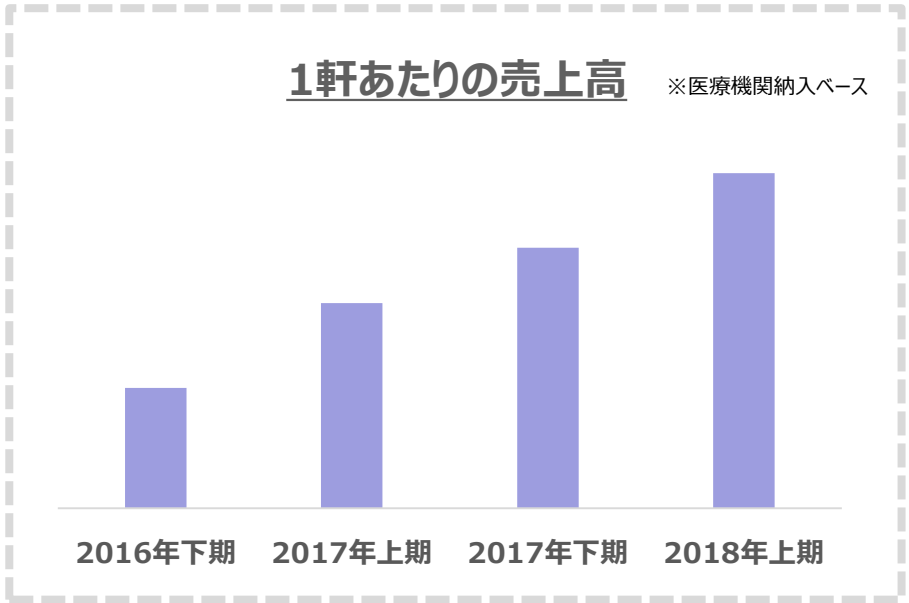
下期以降に向けた布石

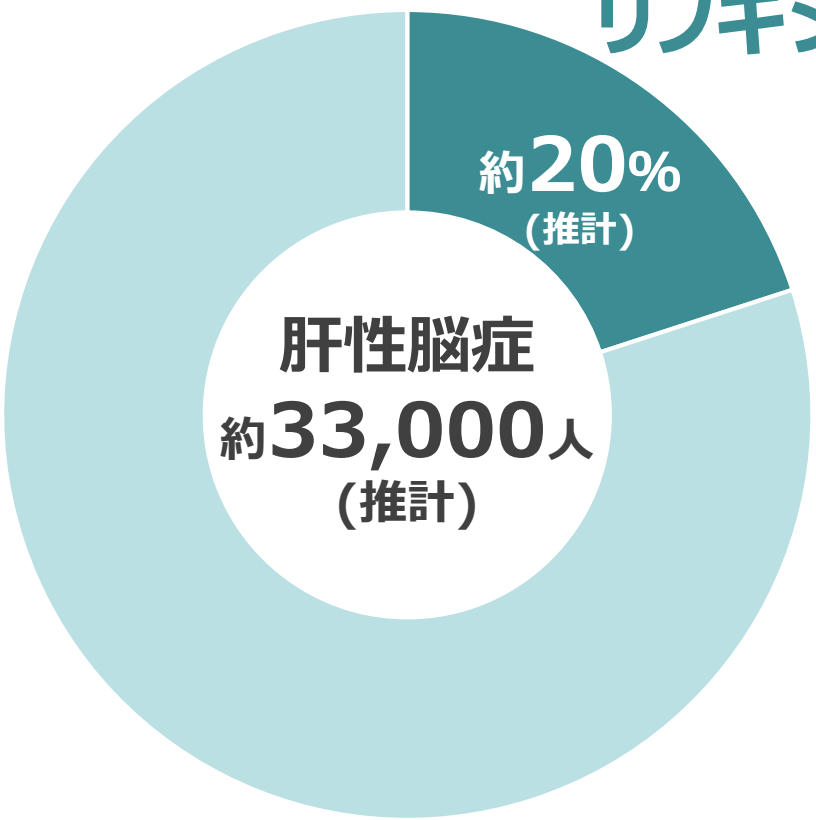
リフキシマ実績推移


(百万円)
2,000
1,800
1,600
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
0
対17年上期：353.8%
対17年下期：161.6%
＜要因＞
・リフキシマ専任MRの導入
・面談医師数の増加
(対17年下期15%UP)
136
333
729
1,178
1,758
2016年下期
2017年上期
2017年下期
2018年上期
2018年下期(計画)

肝性脳症治療への着実な浸透







肝性脳症治療薬の『1st line』を目指す

産婦人科新製品

3製品を連続して投入



ジェミーナ配合錠
(2018年10月発売)

オーソライズド・ジェネリック
フリウェル配合錠LD・同ULD「あすか」
(2018年12月発売予定)

relugolix※子宮筋腫
(2018年2月申請済)

<開発中製品>
- ウリプリスタル
  (子宮筋腫)
- relugolix
  (子宮内膜症)

プレゼンス強化

月経困難症治療剤『ジェミーナ配合錠』（10月4日発売）



21錠(PTP)包装



28錠(PTP)包装

ノーベルファーマ株式会社との コ・プロモーション

特性

- 月経困難症治療剤として、日本で初めて レボノルゲストレルを含有する超低用量 エストロゲン・プロゲスチン配合剤
- 周期投与(21日投与7日休薬)と連続投与 (77日投与7日休薬)の2通りの投与方法が 選択可能
- 連続投与は周期投与に比べ、月経困難症スコア合計、月経困難症に対するVAS※のベースラインからの各変化量において有意な減少を示す

※VAS:Visual Analogue Scale

月経困難症治療剤『フリウェル配合錠LD・ULD「あすか」』



フリウェル配合錠LD



フリウェル配合錠ULD

AG

Authorized Generic

特性

- 低用量および超低用量エストロゲン・プロゲスチン配合剤として日本初のオーソライズド・ジェネリック
- フリウェル配合錠LD・ULD「あすか」は、先発品と同等の原薬・添加物・製造方法で作られており、錠剤の大きさ・色・形も同じ
- 効能・効果、用法・用量は先発医薬品と同じ

relugolix に関するライセンス契約締結について

(2018年5月31日プレスリリース)

News Release

2018 年 5 月 31 日

婦人科疾患領域における relugolix に関するライセンス契約締結について
－製品価値の最大化を目的に武田薬品よりあすか製薬へ導出－

あすか製薬株式会社(本社:東京都港区、以下「あすか製薬」)と武田薬品工業株式会社(本社:大阪市中央区、以下「武田薬品」)は、このたび、武田薬品が保有する relugolix(一般名、開発コード:TAK-385)に関し、製品価値の最大化を目的に、日本における子宮筋腫の独占的販売権および子宮内膜症の独占的開発・販売権を、あすか製薬に導出するライセンス契約を締結しましたのでお知らせします。

Relugolix は、子宮筋腫、子宮内膜症、前立腺がんに対する 1 日 1 回経口投与のゴナドトロピン放出ホルモン(gonadotropin-releasing hormone :GnRH)受容体拮抗薬として開発が進められています。武田薬品は、これまで日本における relugolix の製品化に関する権利を保有しており※、本年 2 月には、子宮筋腫治療薬として、厚生労働省に製造販売承認申請を行いました。なお、今回のライセンス契約の対象は婦人科疾患領域であり、前立腺がんは含まれておりません。

本契約に基づき、武田薬品は、あすか製薬に日本における子宮筋腫の独占的販売権および子宮内膜症の独占的開発・販売権を導出する代わりに、あすか製薬から契約一時金を受領するとともに、売上に応じたロイヤルティを受領する権利を取得します。なお、本契約に関するその他の詳細については開示しておりません。

※日本と一部アジアの国の権利は武田薬品が保有しており、それ以外の地域の権利は武田薬品と Roivant Sciences Ltd.が 2016 年 6 月に設立したバイオ医薬品会社 Myovant Sciences Ltd が保有しています。

<あすか製薬について>
あすか製薬は 1920 年の創立以来、産婦人科・泌尿器科領域に注力するスペシャリティファーマとして、同領域のヘルスケアに関連する製品を提供し、現在もそのラインアップの充実に努めております。詳細については http://www.aska-pharma.co.jp/をご覧ください。

以 上

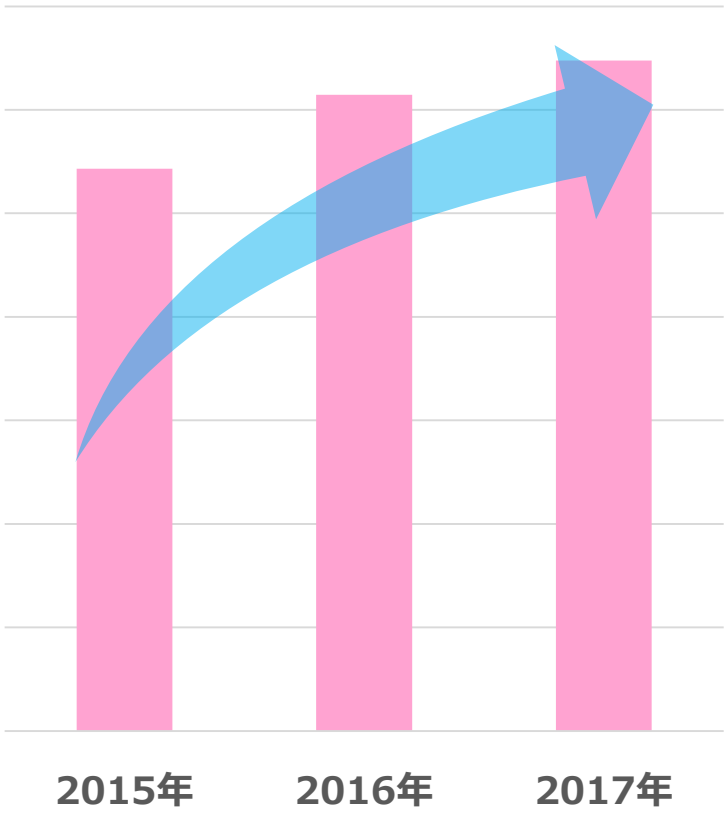
relugolix
(TAK-385)

概要

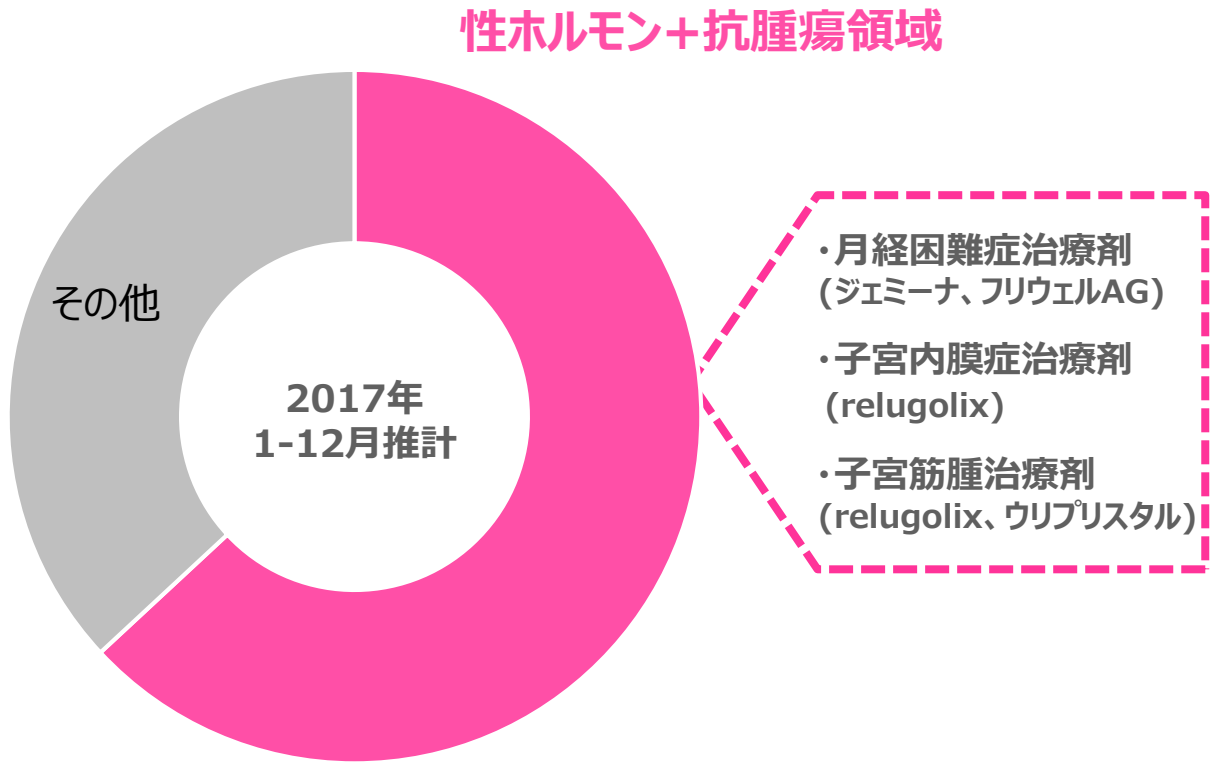
- **武田薬品工業株式会社より導入**
- **子宮筋腫　：2018年2月製造販売承認申請**
  子宮内膜症：PhaseⅢ準備中
- **1日1回経口投与のゴナドトロピン放出ホルモン受容体拮抗薬**

産婦人科市場

産婦人科市場推移



薬効群内訳



産婦人科市場は伸長しており
上市予定製品は、医療ニーズの高い領域と合致

出典：IQVIA-MDI

産婦人科製品パイプライン　ライフステージ別

幼少期 | 思春期 | 生殖年齢期 | 更年期 | 老年期

経口避妊
- アンジュ
- ノルレボ

月経異常
- プラノバール

月経困難症/ 子宮内膜症 /子宮筋腫
- ジェミーナ
- フリウェル
- relugolix
- ウリプリスタル
- リュープロレリン
- ジエノゲスト

不妊症
- AKP-501
- HMG注テイゾー
- ゴナピュール
- ゴナトロピン
- ルテウム
- セキソビット

流・早産 / 出産
- リトドリン
- アトニン-O

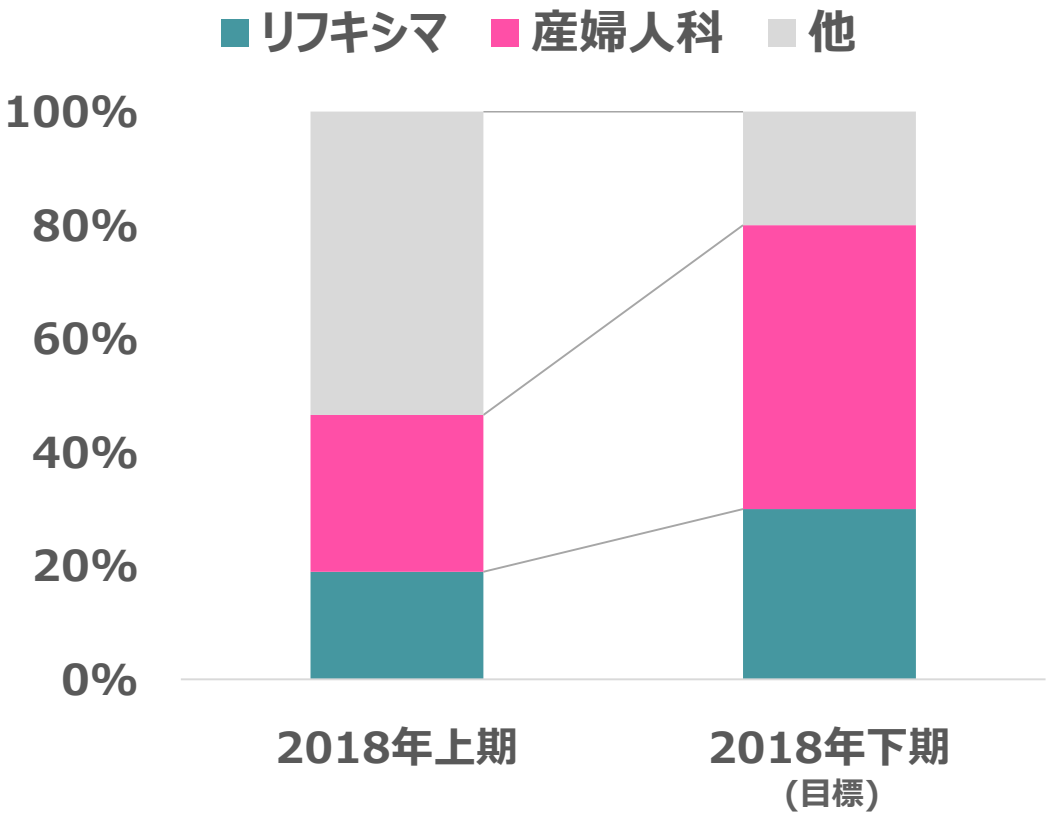
STD
- ラピッドエスピー



更年期障害
- メノエイド
- ホーリン

営業体制の変化

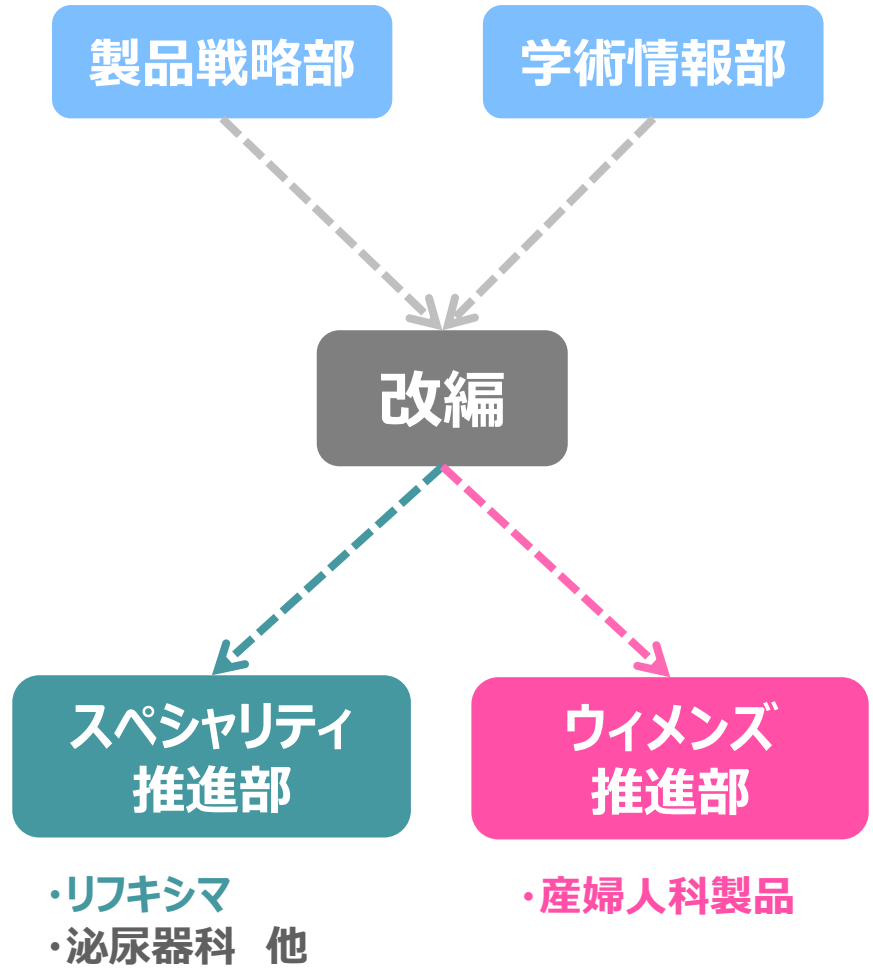
MR活動ウェイト



・産婦人科専任MR
・リフキシマ専任MR

増員
(配置転換)

営業本部

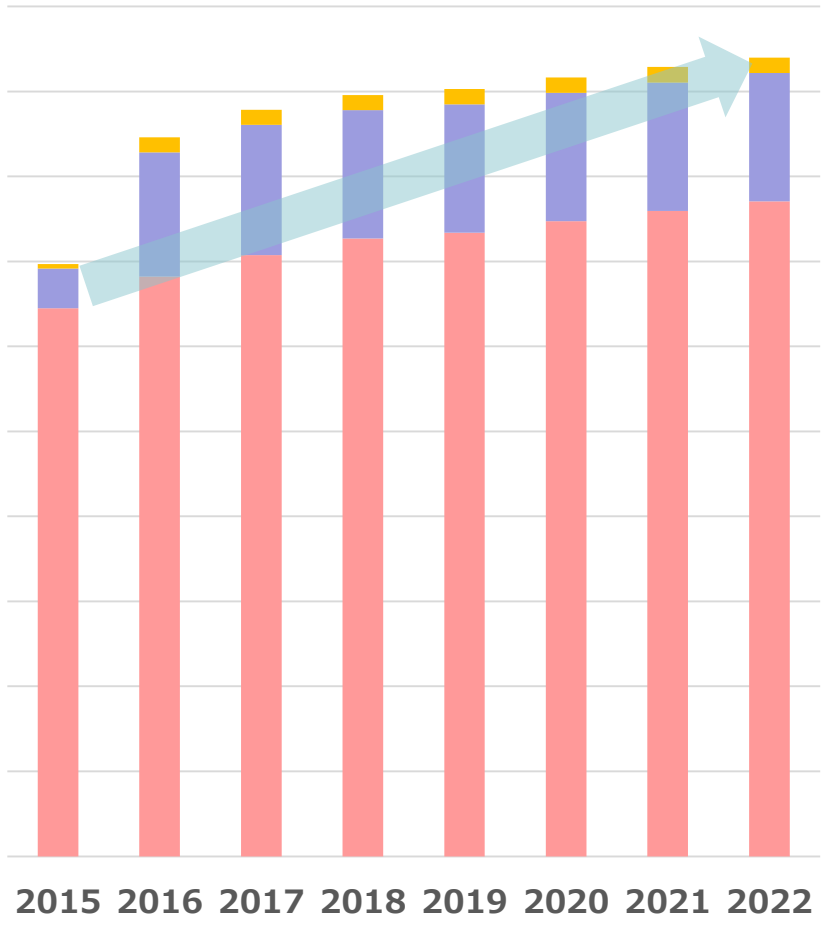


甲状腺領域の取り組み

～2022年チラーヂン誕生100年にむけて～

甲状腺製剤の販売トレンド

※医療機関納入ベース



生産体制



＜第4製剤棟＞

2019年4月下旬～
- 生産品：固形製剤
  チラーヂンS錠（8億錠/年間）
- 規模：延べ床面積4,600㎡

学会活動　他

<4/26>　第91回日本内分泌学会･スポンサードシンポジウム
<4/28>　第91回日本内分泌学会･Hot Topics
<5/25>　世界甲状腺デー
　　市民公開講座（5/19神戸、5/20京都、5/27大阪）
<6/2>　第85回臨床内分泌代謝懇話会
<6/28>　第30回日本内分泌外科学会･スポンサードシンポジウム
<9/1>　中日健康フェア
<10/28>第51回日本甲状腺外科学会･モーニングセミナー
<11/23>第61回日本甲状腺学会ランチョンセミナー
<12/1>　第86回臨床内分泌代謝懇話会

▶ 医師、市民対象活動を協力企業と継続する

国際事業部の新設　～グローバルへの取り組み～

目的

**国内医薬品市場のパラダイムシフトが起こる中、
さらなる発展へ向け、世界市場へのアプローチを強化する**

・発展著しいアジア市場の事業推進
・欧米パートナーとの緊密かつ効率的な関係継続
・インドJV工場の管理と効果的運用

インドJV工場の状況



完成予想図

＜社名＞
NeoASKA Pharma Private Limited

・2018年10月に出資完了（出資比率30%）
・2020年の稼働に向けて工場建築を開始

開発パイプライン

研究開発の状況 （2018年11月時点）

前回からの変更点

開発番号(一般名)／領域･効能	PhⅠ	PhⅡ	PhⅢ	申請	承認
AKP-015（レボチロキシンナトリウム） 粘液水腫性昏睡/重症甲状腺機能低下症		PhⅠ終了	（PhⅡ、PhⅢ不要）	申請準備中	
TAK-385（relugolix） 子宮筋腫 ※開発および製造販売　武田薬品工業株式会社				2018年2月申請	
CDB-2914（ウリプリスタル） 子宮筋腫					
TAK-385（relugolix） 子宮内膜症			PhⅢ準備中		
AKP-501（フォリトロピンガンマ） 不妊症					
L-105 (リファキシミン) クローン病					
L-105 (リファキシミン) 肝性脳症（小児）	（準備中）				
AKP-009 前立腺肥大症	PhⅠ開始				

ASKA PLAN 2020

連 結	2016年度	2017年度	2018年度	2020年度
	実績	実績	計画	想定目標
売上高	485億	489億	490億	700億
営業利益率	3.7%	5.8%	2.0%	10.0%
ROE	7.8%	5.8%	2.4%	8.0%

2020年度の想定目標は現在精査中

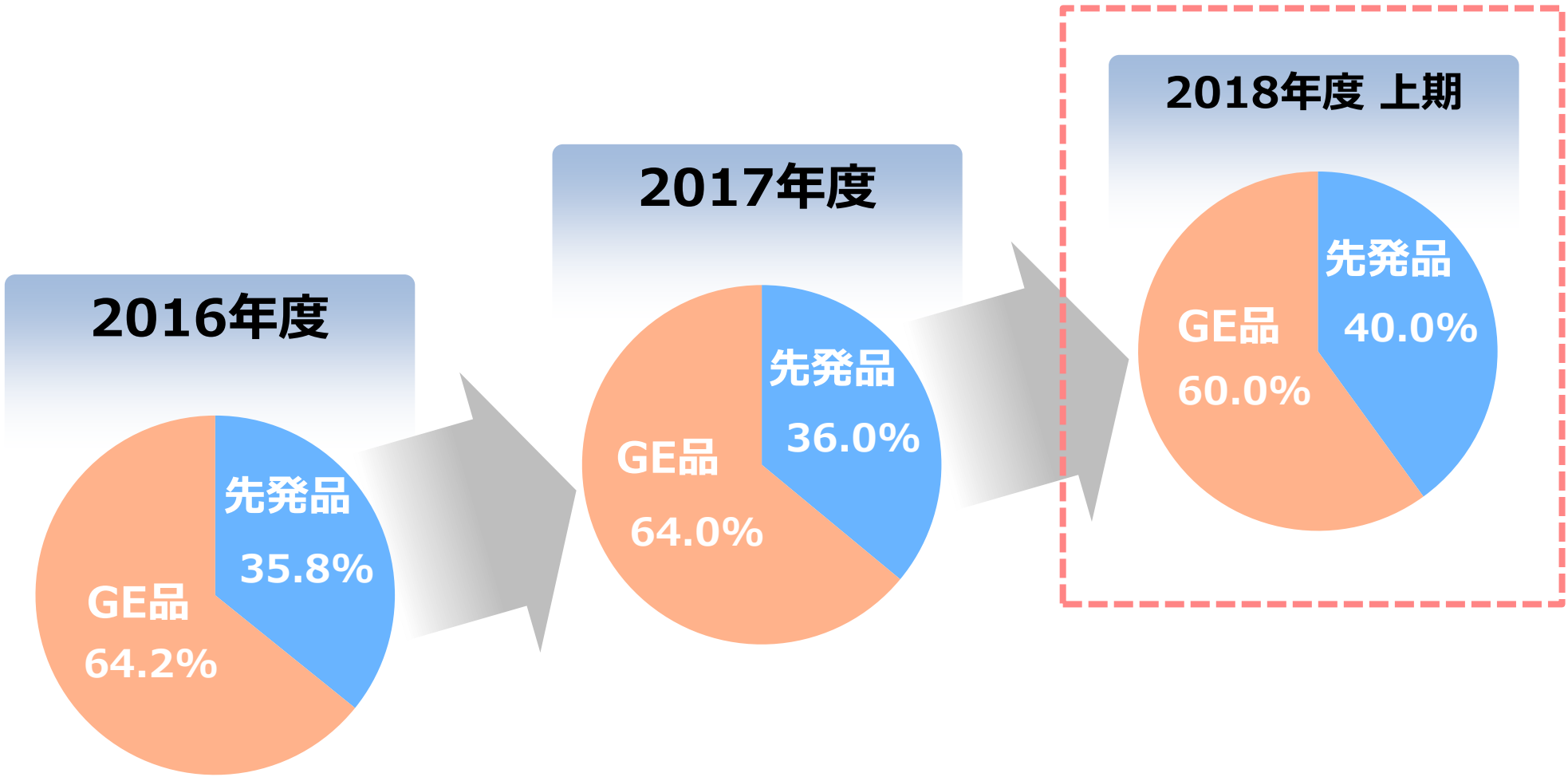
先端の創薬を通じて、

人々の健康と明日の医療に貢献する

あすか製薬株式会社

ASKA Pharmaceutical Co., Ltd.

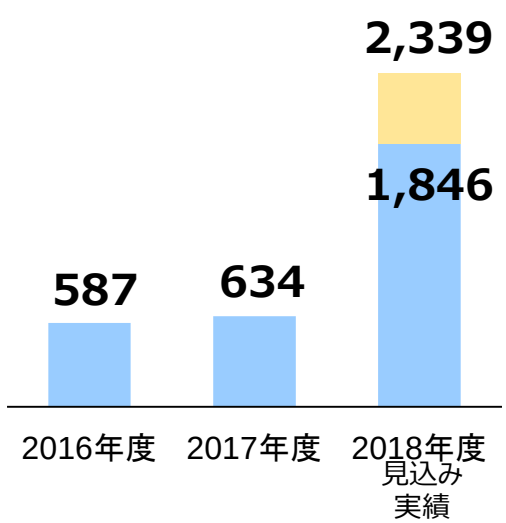
ご参考：医療用医薬品の売上構成比



ご参考：設備投資・減価償却費・研究開発費

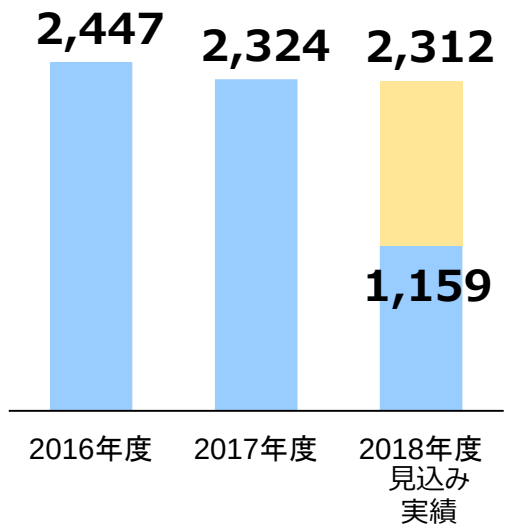
設備投資

（百万円）



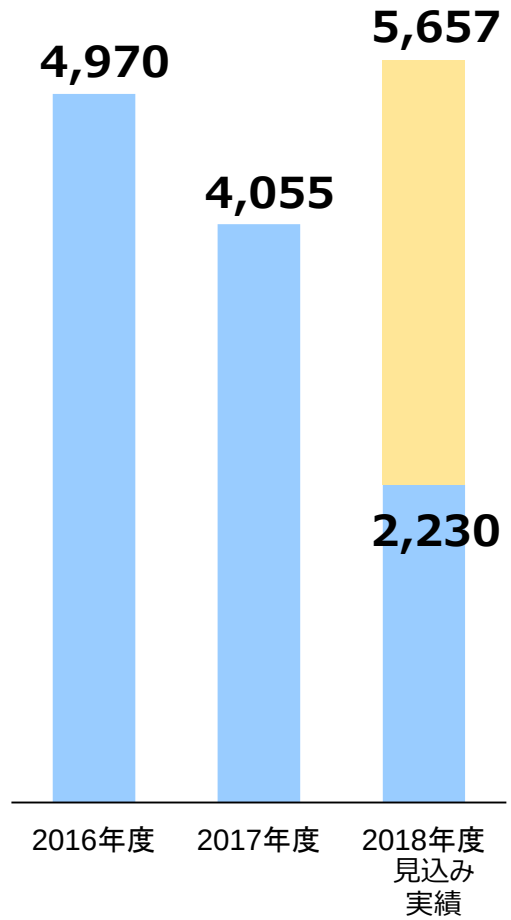
減価償却費

（百万円）



研究開発費

（百万円）



- この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております
- したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います
- 医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません

お問い合わせ先

経営企画部

Tel　：03－5484－8366

e-mail：kouhou@aska-pharma.co.jp

